

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2020年12月1日
(No. 100)

2020
*
12月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (28)

新河岸川 仙波河岸跡 (仙波河岸史跡公園)

仙波河岸は新河岸川舟運で最後につくられた最上流の河岸場で、1879(明治12)年に、下流の扇河岸からの水路を掘り広げ開設された。川越駅から南東に15分ほど歩いた、武蔵野台地の崖線の直下にある。史跡公園であるが緑地公園でもあり、船着き場の名残の池は豊かな緑に包まれているが、河岸場だったころは小屋が並び大きな樹木はなかった。1931(昭和6)年に舟運が廃止された後、自然に生えた木々が90年を経て豊かな緑になった。新河岸川の対岸には川越中心部の汚水を浄化している県内2番目の下水処理場がある。元は川越市の運営だったが、現在は県の荒川右岸流域下水道の処理場となっている。(天田 眞)



カヤネズミの巣をさがそう 9月27日(日)

今年は、新型コロナ禍での開催の為、定員を15名(除く保護者)にし、これまでのような小学校への募集案内はやめて、掲示板での募集だけとしました。前日運動会を予定していた小学校が、雨の為、順延となりキャンセルが多く出たのが残念でした。新しいスタイルの内容もあり、事前に現地でのスタッフミーティングも行い、参加者には、十分楽しんでいただけたと思います。(青木 明雄)

虫とり隊(天田 眞)

虫探しは、いつもと同じ、カヤ原と新河岸川のための昭和の堤防の周り。まだ虫が多い時期ですが、雨が上がったばかりで草木にしが付くが付き、空も暗く、虫はあまり見つかりません。雨上がりのせいで、サクラの老木に大きなナメクジが沢山いました。一方、草の上にはチャコウラナメクジが一匹。外来種だが今はどこでもいます。堤防の上は舗装されて虫はいませんが、草原に入ってバッタやコオロギを追い出そうとしても出てきません。カラムシの葉にタイワンキシタアツバの幼虫がいました。細長いイモムシで危険を察するとジャンプして逃げます。子どもたちは面白がっていました。そんな具合ですが、最後には天気も良くなり、結構虫も捕まりました。

たんけん隊(鈴木 民雄)

今年の探検隊は盛りたくさん。恒例の毛利さん文・絵によるカヤネズミの紙芝居をグループごとに。庭野さんの熱演で子供たちも保護者の方も熱心に見てくれました。カヤネズミやカヤ原についてわかってもらえたかな。次にはオオブタクサの抜き取り体験。オオブタクサが背高く密集しているところを見て、これはいけないと感じた様子。もういいですよと声を掛けるまで、一生懸命抜いてくれました。以前の作業で見つけていたカヤネズミの巣を見てももらいました。巣は残念ながら壊れていますが、やはり実物を見て感激した様子でした。迷路は例年より短かったのですが、お宝カードを探したり、バッタをはじめ様々な虫を追いかけたり、楽しんでいただけたことと思います。

あそび隊(興村幾子)

今年のゲームコーナーは、宝釣り・水鉄砲・矢投げ・剣玉の4種類です。水鉄砲と剣玉は初登場です。

宝釣り：釣糸の先に磁石のついた長い釣り竿で下に並べた目当てのカードを吊り上げるのですが釣糸が揺れて難しい。水鉄砲：竹で手作りした懐かしいものです。左手で筒を支えて右手で突いて水を飛ばすのですが、両手を使うのでかなり力が必要で2~3m先の標的までなかなか水が届かずちょっと大変。矢投げ：自分で選んだセイバンモロコシで矢を作り2~3m先の標的を射ります。これもなかなか矢が思うようにいきません。剣玉：これも竹で手作りしたものです。それぞれのゲームもなかなか思うようにはいきません。みんなで「もうちょっと」とか「腰を落として」「あ〜おいしい〜」とか声をかけながら楽しく過ごすことができました。



[写真：青木 明雄]

新河岸川のあらまし（４）

新河岸川舟運と河岸場

新河岸川では、江戸時代初期から昭和初めまで、江戸・東京と川越を結んで舟運が行われていました。その始まりは、1638（寛永 15）年に川越の仙波東照宮が大火で焼失し、その再建資材を江戸から新河岸川を利用して舟で運んだことでした。翌年に川越藩主となった松平信綱は新河岸川を利用した本格的な舟運を計画し、舟の運航に適するように、元々蛇行の多かった川にさらに屈曲を付けるなどして、水量を確保したといわれています。

舟運が始まったのは 1653（慶安 4）年頃（1644～1662 年の間に諸説ある）で、まず上新河岸・下新河岸が開設され、後に各地に河岸場が増えていきました。

当時の新河岸川は、現在の朝霞・和光・戸田の 3 市が接する地点で荒川に合流していたので、そこから下流は荒川（下流は隅田川）を利用し、浅草の花江戸河岸まで至りました。（河岸場の数は数え方により多少の違いがありますが、新河岸川部分で最大 23 カ所）

最も繁栄したのが川越五河岸といわれた上・下新河岸、扇河岸、寺尾河岸、牛子河岸。当初、新河

岸川は伊佐沼から来る水が主体で、これが台地に接する場所で南に向きを変えており、その場所には上・下新河岸が設けられ、後に、より川越に近い場所として、上流に水路を掘り広げ扇河岸を開設しました。多い時には五河岸合わせて 30 軒の舟問屋があり、下新河岸の伊勢安では母屋や蔵が残っています。

一つ下流の福岡河岸では舟問屋が 3 軒あり、対岸の古市場河岸と共に繁栄しましたが、旧福田屋の屋敷建物が福岡河岸記念館として公開されています。

志木（引又）河岸では井下田回漕店など常時 2 軒が営業していましたが、河川改修で川の位置が変わったり、道路新設で店が解体されたりして、ほとんど名残はありません。

明治になってから、扇河岸の上流をさらに掘り進め仙波河岸を開設しましたが、川越に最も近いため大変繁盛しました。現在は敷地が仙波河岸史跡公園になっています。

舟は底の浅い形で、帆を上げ竿で操りましたが（荒川では櫓）、上りは「のっつけ」と呼ばれる人足が岸からロープで引っ張り上げました。

江戸へは穀類・農産物・木材など、江戸からは肥料・日用雑貨など。旅客も運び、近隣はもとより、所沢方面、奥多摩方面からも荷物が集まりました。

明治後半からは鉄道が通り始め、大正初めには東上鉄道が開通。大正から昭和にかけての改修工事の河道の直線化で水位が下がり、舟の運航が難しくなるなどがあり、1931（昭和 6）年に舟運は終了しました。（天田 眞）



新河岸川ぶらり散歩(2) 11月15日(日)

～舟運と治水の歴史を訪ねる～

畠 光男

コロナ感染拡大により、3月に実施予定が中止となり1年振りの開催となりましたが、一般参加者6名を含め16名が参加しました。体温チェック、マスク着用、ソーシャルディスタンス確保等、慎重な対応でのぶらり散歩となりました。

今回も天田代表の案内で、まずは新河岸駅東口から河岸街道を經由し、下新河岸を目指しました。ここは上流側の上新河岸と合わせ最も古い河岸場とのことですが、船問屋「伊勢安」の古い母屋や蔵が残されていました。

次いで右岸を下流へ歩き、新河岸川舟運のきっかけとなった寺尾河岸跡に着きました。昔の名残は無いものの武蔵野台地崖線からの湧水が何か所も観察されました。

更に下流には、寺尾調節池がありました。1998年の台風で3800戸余りが浸水した大水害の緊急対策事業として築造されたものですが、広大で、対岸の九十川合流点樋門や九十川排水機場と合わせ、増水時は相当の機能を期待できそうです。

更に下った川崎橋を対岸に渡ると1930年の新河岸川改修工事で切り離された旧河川がありました。

その後は、改修工事で直線化された九十川を上流へと歩き、共栄橋近くの公園で昼食タイムとなりました。途中2か所カワセミが観察され、午後の分と合わせ計3か所で観察されました。3回とも見た幸運な人も何人かいたようです。

午後からは、直線化される前の旧九十川や、改修前の九十川が新河岸川になる部分の中州を開発した旭住宅を横に見ながら牛子河岸跡に着きました。旭住宅は1998年水害時にも浸水・孤立した地区とのこと。

旭橋を渡り、右岸を上流へ歩き扇河岸跡に着きました。当初は上新河岸が最上流の河岸でしたが、川越藩の中心地から遠く、更に上流へと開削し、5番目の扇河岸を開設したとのこと。

明治12年には更に上流へ開削し、最後の仙波河岸が開業されました。武蔵野台地崖線の直下にあり、崖下の湧水を水路にしたようです。現在は、史跡公園として整備されています。

次回は、新河岸川源流へのぶらり散歩が予定されているようで、楽しみにしています。



[写真：青木 明雄]

志木の自然観察（秋）～水谷調節池予定地を訪ねる～

10月4日、好天に恵まれ、稲藁の香る中での散策となりました。この調節池は、昨今の洪水多発により、以前からの計画の実施が決まったとのこと。予定地では既に工事が始まっていました。

志木中対岸あたりの柳瀬川左岸土手に越流堤や排水樋管を設けて囲ぎよう堤とし、堤沿いの水谷田んぼに約46,000㎡の細長い調節池を造る。水位上昇時に一旦貯留し、後に川に戻す。周囲堤は地盤改良工事後盛土工事をする、池自体は掘削せず現在の田んぼと同じ位の高さになる、令和6年度末完成予定等々、天田代表が資料をご準備、説明して下さいました。

現在耕作放棄地となっているあたりは、ヨシ、オギやガマが生え、シロバナサクラタデ、オオベニタデ、アキノウナギツカミ、イタドリなどがそれぞれに美しい花をつけています。土手では、樹上で翅を休めるジャコウアゲハを発見。その食草のウマノスズクサがすぐ近くに生え、その葉裏に産みつけられた淡いオレンジ色や黒の卵を観察。まさにライフサイクルの一コマを目撃することができました。



〔写真：青木 明雄〕

完成後も、このような自然と触れ合え、散策を楽しめる場でありますように。

（庭野 恵子）

志木ぶらり散歩

～254バイパス工事で失われる大小合併門樋や旧堤防を歩く～

雨の多かった9月ですが、当日9月15日は、久しぶりの晴天に恵まれました。新型コロナ感染防止対策をしながら、まずは、なんと120年前の明治31年2月竣工、残っているだけでも奇跡的という「大小合併門樋」を見学。志木市下水道部下水道施設課のご協力により、普段入れないフェンス内に入り門樋の中を潜るという貴重な体験をさせていただきました。周辺に咲き誇っていたセンニンソウの花とともに、歯状装飾（デンティル）が施されたアーチ型の門樋を記憶に刻むことができました。バイパス工事で解体後、いずれ然るべき場所に復元される予定だそうです。

次に明治32年竣工の「北美塚樋」を見学、村を守るために江戸時代に作られ、一部が今回工事で失われる新河岸川除堤を歩きました。木曽目堤・佃堤と交わる地点に立ち、乗越地区における南畑村と宗岡村の洪水時の争いの話など伺いました。江戸時代以来いくつもの堤や樋門が築造されてきた歴史も、昨今、かつてないほどの洪水や氾濫が多いせいか、ことさら興味をもって伺いました。



〔写真：青木 明雄〕

天田代表には、詳細な資料をご準備、ご案内いただきました。

（庭野 恵子）

生きものの調査コース

新河岸川左岸の

自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄



今回は、「志木生きもの調査」の新河岸川左岸のコースをご紹介します。スタート地点は、旧村山快哉堂(S)です。この旧村山快哉堂のある中洲は、「水鳥の憩いゾーン」の名前の通り、冬になると川には沢山の渡り鳥がやってきます。

旧村山快哉堂からでて地図上の記号のAからHとまわって、出発点の旧村山快哉堂に戻ってくるコースです。いろは橋から袋橋までの土手は、約900mですが、左岸の土手に沿って大きな木が袋

も飛び交っています。冬には、渡りのカモ類もたくさんやってきます。いろは橋を渡ったところから、階段で河川敷に降りることができ、季節の野草を見ながら河川敷を歩くのも楽しいです。いろは橋から少し行くと、堤内からの用水が川に流れ込む樋管がありますが、この樋管から先が宗岡第四小学校で、この土手は登下校の際の通学路としても利用されています。ここから宗岡中学校までには、ヒマラヤスギ・アカメガシワ・シラカシ・マテバシイ・ケヤキ・クロマツ・ヒサカキ・イチョウ等いろいろな木が植えられていて、木の観察も楽しいところです。秋には、これらの木の実が沢山落ちています。

袋橋から振り返ってみると、大きな木は、学校の建物などの人工物を遮って、森が広がっているような光景です。最近袋橋右岸のところにも河川敷に降りられる階段ができました。袋橋右岸には、農家があり、広い田んぼが広がっていて、大きな緑地となっています。

袋橋から右に曲がると左手に宿氷川神社があります。神社は江戸時代につくられた旧堤防の高さに作られ、千光寺裏の堤防は、今も樹木に覆われ、



いろは橋から見た上流左岸

橋まで樹林のように立っています。木があるところは、手前から宗岡第四小学校、県立志木高等学校、宗岡中学校と学校が並んでいるところです。川は、志木市では、貴重な自然となっていて、1年中水鳥やサギや小鳥たちがいて、蝶やトンボなど

ふくろ樹林として残されています。千光寺を抜けた先は、広い田んぼとなっていました。今は、バ



宿氷川神社と千光寺

イパス道路の工事が行われいて、緑地の大半がなくなろうとしています。宿氷川神社から出た通りの脇には道興准后歌碑が立っている旧堤防の緑地があります。更に宗岡中学校前を通っていくと下



下の谷第1児童遊園地

の谷第1児童遊園地があります。それほど広くない遊園地ですが、ミモザ・ムクノキ・シャリンバイ・アカシデなどが植えられています。公園の周囲にはいろいろな花もおかれ、周囲の人により、良く手入れされているのがうかがえます。この公園から出て総合福祉会館の駐車場入り口の前に、下の谷第2児童遊園地があります。この遊園地は、かなり狭く、周辺の住宅のゴミ出し場所となっていたり、レンタル自転車置き場となっていて緑はほんの少ししかありません。更に、むじな橋から登った旧堤防にレンガ造りの大小合併門樋があります。この先には、広い農地が広がっていますが、大半の部分がバイパス道路に代わってしまう工事が進んでいます。以前までは、この旧堤防を通して、宗岡団地まで出ていましたが、この旧堤防は、今回の工事で無くなってしまい通れません。

県立志木高等学校の正門まで戻り、左に曲がり、水路沿いの道路を進み、途中で左に入り、宗岡団



宗岡団地内遊園地

地内の遊園地に行きます。この遊園地には、藤棚があり、大きな実が沢山なります。ヒマラヤスギが道路と隔離していて、ちょっとした森の中の広場といった空間を作っています。ネジバナやニワゼキショウなどの野草も見れる緑地の楽しめる遊園地となっています。

公園を出て、元の水路沿いの道に戻ります。この後、水路は志木高校の敷地内に流れて行き、宗岡第四小学校沿いに流れて行き、新河岸川へと注ぎます。道路は、宗岡第4小学校の正門に続く道の北美塚樋の上を通っていきます。ここからは、道路脇が遊歩道として整備されたハーベストモールがあり、天神社の手前まで続いています。小学校との間は広い畑となっています。小学校は、大きく育った樹木に囲まれています。



ハーベストモール

このあとは、天神社ですが、天神社の鳥居から社殿までは、殆ど緑がなく、遊具が置かれた広場になっています。ルートとしては、社殿の裏から神社に入る格好となり、やや薄暗いちょっとした緑の空間となっています。天神社を出て、いろは橋を渡り、旧村山快哉堂に戻ります。

志木の生きものの調査

今回は街中が対象なので野生の生きものが少ないと思われがちですが、公園や神社などもあり、数多くの生きものを観察することができました。普段気にも留めない生活に身近な場所でも、野草や虫たちなどが命を育んでいることをうかがい知ることができました。

～本町・柏町～

10月12日（月）参加者：8名

志木駅東口交番前河童像に集合し、本町・柏町周辺を調査・観察。

季節がら植物の実をたくさん観ることができました。例をあげると、カラタチ、ノブドウ、ゴンズイ、ネズミモチ、ハナミズキ、ムク、ヨウシュウヤマゴボウ、サンショウ、ヒサカキ、ビナンカズラ、クサギ、エンジュの実などです。中でも、赤く色づく実がいろいろとあります。鳥は赤系統の色を好み、鳥が花粉を媒介する花の8割が赤色だと言われています。赤い実も、鳥に種を運んでもらうための戦術なのかもしれません。

～中宗岡・下宗岡周辺～

11月9日（月）参加者：7名

宗岡公民館に集合し、中宗岡・下宗岡周辺を調査



〔写真：青木 明雄〕

・観察。

秋も深まりイチョウ、ナンキンハゼなどが美しく紅葉する時期でも、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ベニシジミなどの蝶が活動していました。ヒメジョオン、カントウヨメナなど花を咲かせる野草も数々あり、蝶たちに蜜を提供しているのでしょう。

（林 秀樹）

「柳瀬川水族館に参加して」

いつも小学校5年生の息子と一緒に柳瀬川水族館に参加させて頂いている渋谷です。

毎年、毎年、柳瀬川水族館のシーズンを楽しみにしています。最近では友達2、3人も一緒に来るようになりました。

彼らにとって何よりの魅力は、「川に入れること」みたいです。いつも「川には絶対に入らない」と口ずっぱく言われているのに、堂々と入って遊べるのが嬉しいようです。

川でいつも採れるのがお馴染みのヌマチチブ・ウキゴリ・スジエビたちです。一番印象に残っているのが、お腹の膨らんだカダヤシを水槽に入れていたら、終わる頃にはたくさんの稚魚を産んでいたことです。かわいいナマズの赤ちゃんが採れたこともありました。大きなモズクガニがいたり、釣りに来ていた人からヤマベ（オイカワ）をもらったりしたこともありました。

いつも『志木いきもの図鑑』で採れた生き物たちをチェックしています。この前コクチバスが採れたときは、「特定外来種だ」と言っていました。



〔写真：青木 明雄〕

子どもたちに自然と親しむ活動の場を作ってくださり、また知識も授けてくださるエコシティ志木の皆様に心から感謝しています。柳瀬川と共に皆様が彼らの心の中に「故郷の風景」として刻まれていることと思います。

（渋谷 美玲）

- ① ユミアシゴミムシダマシ [林 秀樹]
9月10日 富士見市榎町
- ② マメノメイガ [林 秀樹]
9月22日 富士見市榎町
- ③ シロバナサクラタデ [田村 キミエ]
10月4日 水谷田んぼ [写真: 庭野 恵子]
- ④ ツリフネソウ開花～種子散布 [天田 眞]
9月下旬～10月下旬 こもれびのこみち
- ⑤ ツルボ [庭野 恵子]
10月12日 本町
- ⑥ イヌショウマ開花 [天田 眞]
10月上旬 西原斜面林
- ⑦ 南方系のチョウ・ガの幼虫2種
10月24日 [天田 眞]
● クロメンガタスズメ (体長11cm)
西原斜面林のムラサキシキブで
● ナガサキアゲハ
柳瀬川堤防(柏町)の柑橘系の木で
- ⑧ ハスモンヨトウ [林 秀樹]
10月31日 富士見市榎町
- ⑨ ウリキンウワバ [林 秀樹] 11月8日 富士見市榎町



① ユミアシゴミムシ
ダマシ



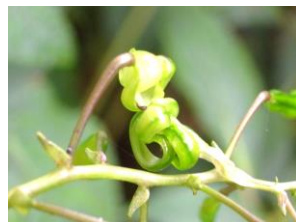
② マメノメイガ



③ シロバナサク
ラタデ



④ ツリフネソウ開花～種子散布



⑤ ツルボ



⑥ イヌショウマ



⑦ 南方系のチョウ・ガの幼虫2種
クロメンガタスズメ ナガサキアゲハ



⑧ ハスモンヨトウ



⑨ ウリキンウワバ

会員紹介 武本 千左夫さん

私は、志木ニュータウンと道一つ隔てた新座に住んでいます。「あれ！」名前見たことがある方がおられるでしょう。そう、「野菊の墓」の伊藤左千夫でしょう。似ています。

入会のきっかけは、2013年8月に柳瀬川魚とりに参加し天田さん、青木さんと出会って、それ以来、ぶらり散歩、柳瀬川魚とり、カヤネズミのイベントに参加しております。

新座では、野火止用水の清掃、魚を増やそうで立ち上げた「川爺」と、十文字学園女子大学をプラットフォームとして新座市内の自然環境保全に関わる地域13団体で立ち上げた地域団体のネットワーク「ふるさとの緑と野火止用水を育む会(通称HUGネット)」に参加しています。HUGネットの研修会には天田さんにご協力をお願いしています。今は、3年前から始めた野火止用水に「ホタルを飛ばそう」と幼虫を放流し、羽化し飛びかう姿を楽しんでいます。

趣味というか、今、主に楽しんでいますのが「絵」と「吹矢」です。「絵」は透明水彩画で、県展や公募展などに出品しますが、結果は甘くありません。今年はコロナのため県展をはじめすべての公募展が中止になり、仕上げた絵が行き場をなくし寂し

い限りです。ほかに野火止公民館で楽しい絵画教室「野火の会」に参加しており、コロナに負けず頑張っています。ここでもっと宣伝。2020年12月7日(月)～14日(日)「にいざほっとぷらざ」で「野火の会展」を開催いたしますので、興味のある方はぜひお出かけください。来年3月で「にいざほっとぷらざ」は閉館になり最後なのでがんばっております。もう一つは「吹矢」です。腹式呼吸を使うため、健康にいいと言われて、始めて10年になりますが、一向に上達しません。これもコロナの影響を受け4月以来休止されています。

今後あまり参加できませんがよろしくお願いします。



☆会員状況

2020年更新済（11月17日現在）
正会員（個人） 44（内、新入会員1）
正会員（団体） 2
賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2020年度の年会費は、郵便振替（振替番号 00510-4-13225）にて納入をお願いします。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体 ネットワーク

登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティー協議会
志木市社会福祉協議会
認定NPO法人さいたまNPOセンター
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
彩の国南西部地域NPO連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市教育サポートセンター
市内小中学校

**情報満載！
当会のホームページ**

NPO法人エコシティ志木
<http://kappa-no.net/eco-shiki/>
志木まるごと博物館河童のつづら
<http://kappa-no.net/>

新型コロナ禍でのイベント活動他

青木 明雄

エコシティ志木では、適切な新型コロナ感染防止策を取りながらイベントを行っています。これまでの活動においての感染防止策をご紹介します。

もっとも基本的な事として、イベントへの参加においては、マスク又は、フェイスシールドの着用をお願いしています。また、体調の悪い方・熱のある方の参加をお断りしています。非接触での体温測定の為の検温器を購入して、参加者の検温を行っています。

イベントの受付等で相手との距離を確保できない時や気温が高い状態での作業等においては、マスクでは熱中症の恐れがあるなどの対応として、フェイスシールドを使用することとしました。

イベント開催にあたっては、事前申込制として、参加人数を15名に制限しました。保護者が必要な「柳瀬川であそぼう」は、十分なソーシャルディスタンスの確保が困難ということで、今年中止としました。

「カヤネズミの巣をさがそう」についても、保護者が必要ですが、3つのグループに分かれて実施するという事で開催しました。但し、全体で集まる時間を短くする為、集合写真の廃止と紙芝居を探検コーナーで行うことと、マシュマロバーベキューの取りやめ等の感染防止策を行いました。

志木の生きもの調査・観察においては、見つけた生き物を見る時に、密になりがちなので、指図棒を配布し、少し離れても生きものを確認がしやすくしました。併せて、できるだけフェイスシールドの着用もお願いしています。

イベントでの話においては、大声での説明を避ける為、スピーカーマイクの使用を徹底しています。

公民館等室内での会議においては、利用上の注意を守りつつ、短めの運営にも努めています。

志木生きもの図鑑は、大変好評をいただいておりますが、不特定な方への一般販売はしておりません。学校・図書館・公民館等への無料配布を完了し、ご利用いただいています。また、エコシティ志木の活動に参加された方に、教材としてご提供しておりますのでよろしくお願いいたします。

空き地や河川敷では外来種の野草が大半ですが、志木の昆虫はどうでしょうか。

アカボシゴマダラは 1998 年に神奈川県で確認されてから、関東地方中心に分布を広げていますが、何者かが中国大陸産の個体を放蝶したためといわれています。

アメリカシロヒトリは北米原産で、第二次大戦後、アメリカ軍の物資とともにやってきたとされています。

キボシカミキリは東日本と西日本で起源が異なり、関東地方では 1930 年ころ東京で記録され、台湾や中国大陸から観葉植物についてきたのではないかとされています。

ブタクサハムシは北米原産で、1996 年に発見され厄介者のオオブタクサを食べてくれますが、他のキク科植物も食べるようなので、今後問題になるかも知れません。

明治時代に養蜂利用のために導入された**セイヨウミツバチ**はヨーロッパなどの原産で各地の亜種

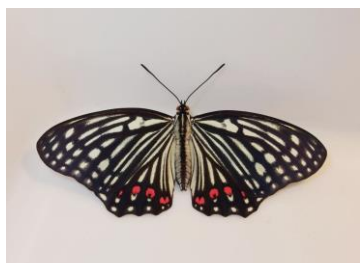
があり、日本にはイタリアの系統が導入されているようです。

夏に樹木の上で甲高く鳴く**アオマツムシ**は明治時代に中国から入りました。

キマダラカメムシは台湾・東南アジア・中国原産で、昭和初期から九州に生息していたようですが、最近急速に北上し、志木でも最もよく見かけるカメムシです。

イセリアカイガラムシはオーストラリア原産の柑橘類の害虫で、1908 年に静岡で発見。しかし天敵のペダリアテントウを導入し、農業上は防除に成功しましたが、今でも時々様々な樹木で見かけます。

アワダチソウグンバイは北米原産で 2000 年ころに兵庫県で確認され、今ではふつうに見かけます。体長 3~4 mm と小さく、キク科植物の葉裏で吸汁します。



アカボシゴマダラ



アメリカシロヒトリ (繭と蛹)



キボシカミキリ



ブタクサハムシ



セイヨウミツバチ



アオマツムシ



キマダラカメムシ



イセリアカイガラムシ



アワダチソウグンバイ

巨 樹 と の 出 会 い

《 2 》 志木市の巨樹たち・・・その5

本間 敏文

前回紹介しましたヒマラヤスギについて話を進めます。名前にスギが付いていますが、スギの仲間ではなくマツの仲間です。

さて、枝葉には揮発性の特有な香りを発散させ、バクテリアやカビを抑制するフィトンチッドによる抗菌作用があります。

10～11 月には雌花、雄花が短枝に1つずつ上向きにつきますが、雌花は小さくて目立つ数も少ないので見つけにくいです。

実（球果）は松かさのように開き、鱗片の隙間にある種は風に飛ばされ、鱗片は重たいのでバラバラと落下するが、実の頭頂部は固まったままポトと落ち、見た目がバラの花のようで「シダーローズ」と呼ばれています。



【ヒマラヤスギの実】



【シダーローズ】

次にこのヒマラヤスギの近くにありますがコウヤマキを見て行きましょう。

幹周りは311cmと巨樹としては小粒ですが、欠損もなく元気な巨樹です。コウヤマキの巨樹は埼玉県でも7本しかなく貴重な巨樹です。

さて、コウヤマキは1属1科1種という特殊な日本固有種です。庭園や寺社の境内に植栽され、宗教儀礼としてその小枝が仏前に供えられるなど、日本の文化的・宗教的な面からも重要な樹木です。

名前の由来は、高野山真言宗の総本山である高野山で多く見られることによるものです。

また、世界三大庭園樹として賞賛されています。

前回紹介しましたヒマラヤスギも世界三大庭園樹となっています。



【宝幢寺のコウヤマキ】

編集後記

◇表紙の写真の場所が知りたいとの意見があり、場所を示した地図の URL を QR コードにして印刷しましたのでご利用ください。記事は、できるだけ堅苦しい報告書になるのを避け、雰囲気が伝わるような形に心がけました。また、できるだけ多くの人に記事を寄せてもらう様に調整させていただきました。（青木明雄）

エコシティ志木通信

第100号 2020年12月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338（天田真）

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com